

■安全について

福知山線列車事故から20年、伯備線触車事故から19年が経過した。しかし、ここ最近、JR各社で安全を脅かす事象が相次いでいる。私たち青女世代は事故後入社のみとなり、事故について思い出すことはできないが、学ぶことはできる。現場で働く私たち青年女性委員会世代から意識改革しなければならぬ。「安全お守り手帳」の活用、「ABC運動」の浸透、「確認ですが」の声掛けなど安全への取り組みを続けていただきたい。

■組織・青女活動について

組織をより良くするには、今の活動をしっかりと継承しつつ、同時に新しい組合員がレクリエーションなどに積極的に参加する、この流れが重要と考える。

そのためには、「新しい活動」を「幅広い組合員に周知」することが必要不可欠である。ユーススピリット、交流レクリエーション、各地本総支部の行事に実際に参加してもらえば「楽しかった」と言ってもらえるはず。

だが参加までのハードルが高く、敬遠されがちなも事実。だからこそ、来年度以降は参加しやすい環境づくり、開催にあつての周知等に、情宣活動により一層取り組みなければならぬ。今しかできない、私たちにしかない活動

を、各地本総支部の皆さんと一緒に取り組んでいこう。また、今後の役員育成についても課題認識を持つている。ここに集まっている皆さんは全員、役員をしていただいている。各種行事への参加側とは違い、企画運営に関わるなど役員は大変なのも事実である。

しかし、役員をやっていないからといって、来年度以降は参加しやすい環境づくり、開催にあつての周知等に、情宣活動により一層取り組みなければならぬ。今しかできない、私たちにしかない活動

を、各地本総支部の皆さんと一緒に取り組んでいこう。また、今後の役員育成についても課題認識を持つている。ここに集まっている皆さんは全員、役員をしていただいている。各種行事への参加側とは違い、企画運営に関わるなど役員は大変なのも事実である。



新たに就任した高杉新青年女性委員長による団結ガンプロー

れば出会えなかった人、考え方、経験がある。それは人生にとって絶対

ている。今後は被服に関する意見が多く寄せられているため、諸課題交渉で徹底的に議論し

ていく。これからも、現場の声を力に変えて、労働条件の改善を勝ち取っていこう！

# 李澤青年女性委員長挨拶(要旨)

## 日々の業務から一人ひとりの職場環境まですべてにおいて安心・安全な鉄道会社となるために



今年はグラングリーン大阪や広島新駅ビル「ミナモア」の開業、大阪・関西万博の開幕など、地域と鉄道の新しい関係が形づくられ、駅がまちの中心としての役割を強く示した一年となった。

社会と鉄道が大きな転換期を迎える中、労働組合にも新たな役割が求められている。多様な働き方や価値観が広がる今、すべての仲間が自分らしく働ける環境づくりに向けて、対話と議論が不可欠だ。

青年女性委員会として、次世代への運動の橋渡しをどう進めるか、仲間づくりをどう広げていくか—この定期委員会を通じて「全員で」確認し、運動の継承と発展を考える場としていきたい。

—安全について—

JR全体で死亡労災が発生している現実、そして、今もなお、重大労災や死亡につながりかねない事象が続いていることを、私たちは重く受け止めなければならない。議案書の中の安全が「0番」であるという意味、安全をすべてにおいて最優先とする姿勢、「ゼロからの出発」を改めて共有したい。

私たち青年女性組合員は福知山線列車事故後に入社した世代であり、事故を直接知らないからこそ、事故を知る取り組みが重要となる。会社が事故を経てどう変化してきたかを理解することは、JR西日本で働く者の責務である。

安全は確約されたものではなく、日々の注意とルール遵守によって守られる。

現場で守りにくいルールがあるならば、それを変える議論をすることも、現場で働く私たちの責任だ。命が失われてからでは遅い。些細なことでも声をあげ、変化を求め続けることが大切だ。重大労災防止の行動指針や「安全お守り手帳」、ABC運動の浸透、「確認ですが」の声掛けなど、すべての職場で安全への取り組みを徹底してほしい。

安全は当たり前ではなく、終わりのない取り組みである。労働組合のチェック機能を活かし、青年女性委員会から安全を創り上げる気概で、世界で一番安全なJRを全組合員で築いていこう。

—政治活動について—

政治は無関心でも無関係ではられない。7月の参議院選挙では、「JR連合国会議員懇談会」JR連合「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」所属議員15名を推薦し、浜野よしふみ氏・森本しんじ氏ら4名が当選した。各地本・総支部青年女性委員会の献身的な支援に感謝申し上げます。

鉄道やバスは地域の暮らしを支える重要なインフラである一方、労働人口の減少、自然災害の激甚化、設備の老朽化など、業界を取り巻く環境は厳しさを増している。こうした課題の解決には、国の制度や仕組みの後押しが不可欠であり、政治の力が必要だ。労働組合が政治と関わるのは、働く仲間と地域の未来を守るためである。

国会や地方議会で「JR」や「地域公共交

通」が語られることは、私たちの仕事や生活に直結する。だからこそ、政治との関係を正しく理解し、関心を持ち続けることが重要だ。

先ずは一人ひとりが「1票を捨てない」こと、投票に行くことから始めてほしい。引き続きの協力をお願いしたい。

—2025春季生活闘争・労働協約改訂交渉について—

2025春季生活闘争では、「人財の確保と定着」「採用競争力の強化」「賃上げが当たり前の社会」を目指し、社員の生活を守ることを最重要課題に位置付けた。賃金実態調査や春闘集会への協力に感謝申し上げる。粘り強い交渉の結果、ベースアップ12,200円、年間臨給5.3ヶ月、エリア手当の引き上げ、ブリージャー制度導入などの成果を得た。両バス地本でも賃上げを勝ち取り、グループ全体に波及する春闘となった。

2026春闘に向けた取組みもすでに始まっており、9月の賃金実態調査が重要な交渉材料となっている。

総合労働協約改訂交渉では、青年女性組合員の声も反映され、保存休暇の見直しやライフプラン支援制度の新設など、多くの改善を実現した。また、勤務時間中の組合活動に「地本青年女性委員会定期委員会の出席」が追加され、会社側の認識も明確となった。これからの運動を担う世代の声を集め、議論し、発展させていくことがますます重要となっている。引き続きの理解と協力をお願いしたい。

—組織、青女活動について—

青年女性委員会は約5,700名で構成され、JR西労組の約20%を占める重要な組織となっている。新入社員の加入も順調に進み、「仲間づくり」に向けた信頼関係の構築が引き続き求められている。

一方で、組織が大きくなるほど個々の声が届きにくくなる課題もある。職場で孤立している仲間がいないか、日々の様子に変化がないか、気づいた人が声をかけることが大切である。労働組合は困っている仲間を支えるための存在でもあり、活動内容を現場に伝えることも重要な役割である。

組合役員としての経験は、企画力や調整力、優しさなど社会人としての成長にもつながる。今年開催された「ユーススピリット2025」では、同世代やグループ会社とのつながりを深める機会となった。

青年女性委員長としての2年間で、他産業の労働組合との交流を通じ、青年女性委員会の活動が他産業からも高く評価されていることを実感した。JR連合は連合全体で見ると小規模ながらも、JR西労組のような青年女性委員会の活発さは他に類を見ない。活動への理解や制度の変化には時間がかかるが、一人の行動が変化のきっかけになる。面倒だと感じることもあるが、それを乗り越えてこそ、組織の発展がある。活動を楽しみながら、一日一日を大切に、自信を持って取り組んでほしい。